

西尾市教育委員会の 多文化共生教育 はじまり物語

～未来をカラフルに～

西尾市教育委員会事務局

▲西尾市の離島・佐久島のイーストハウス（体験型アート作品）

西尾市教育委員会の多文化共生教育はじまり物語 0 出発点！

2007

話は15年前、平成19（2007）年から始まります。

- ①当時の西尾市は**合併前**で人口107,064人のうち5,322人（約5.0%）が**外国人**市民でした。
- ②市内の公立保育園（16園）・公立幼稚園（3園）の園児約120人（約3%）が**外国籍**で、その多くが日系ブラジル人（ポルトガル語）だったため、保育園・幼稚園を所管する**教育委員会事務局子ども課**では、**ポルトガル語通訳者**を公立保育園に1人、子ども課窓口にも1人配置して、**園だより等の翻訳・保護者の通訳**に対応していました。

③**子ども課**では、ニューカマーと呼ばれる「出稼ぎ」来日した南米日系人の多くが、就労優先の生活を送るため、市や人材派遣会社の通訳サポートに対する依存性が強く、言葉・習慣等の壁を乗り越えていく姿勢が希薄なことから、**外国人児童の子育て環境**について次のような点に危惧を抱いていました。

- ✕ 外国人保護者の仕事最優先の不安定な生活により、**外国人児童が十分に成長発達するための言語力を母語でも日本語でも身につけることが難しい**ことから、義務教育対象として位置づけられていない**日本の学校生活における適応や定着が難しい（差別的待遇）**と思われること。日本人でも**小1プロブレム**が問題視。
- ✕ 異なる文化的背景を持つ外国人保護者が日本の教育システムに関する情報や知識に乏しいことによる子供の**教育環境に対する意識の低さ**
➡外国人生徒の高校進学率の低下（中学までのドロップアウト）が目立つ

出発点

国籍や肌の色に関係なく子供たちは日々成長発達します。
日本に生まれ育った子供たちが国籍に関係なく自分の夢を自由に描くことができるような環境づくりに何が必要か、それが出発点でした。

西尾市教育委員会の多文化共生教育はじまり物語 1 事業開始！

2008

④保育園・幼稚園を所管する子ども課では、外国人育児家庭が保育園・幼稚園で安心して子育て・子育てができるための自律的支援を多角的に行う「多文化子育て支援事業」を企画しました。

⑤多文化子育て支援事業は、外国人児童の多い私立保育園に外国人児童コーディネーターを配置し、外国人育児家庭に対するアンケートや育児相談・就学説明会・日本語教室、就学前児童に対するプレスクール（初期指導教室）などを実施するもので平成20（2008）年度スタートを目指しました。

⑥新規事業のため財源確保として愛知県フレンドシップ継承交付金（補助率10/10。愛知県地域振興部国際課）を活用しました。平成20（2008）年度の当初予算額は4,500千円を計上しました。

⑦プレスクールの立案計画に際しては、外国人児童生徒数が全国一の愛知県が、平成18（2006）年度から県下で実施支援していたプレスクールの取組実践を参考にしました。

⑧最大の難関はコーディネーター探し。当初は人材派遣会社の通訳者の雇用を模索しましたが、教育的支援ができる人材発掘ができず絶望的だった中、人伝でJICAの青年海外協力隊員として2年間、ブラジルで日本語指導して帰国したばかりの女性を（奇跡的に）採用できました。

➡人的資源の確保！

⑨平成20（2008）年度の8月までは、保護者アンケート、他市のプレスクール視察などにより、開設準備を進め、9月にプレスクールのPRや愛知県国際課からプレスクール教材を借用、11月に語彙調査を実施して12月から3月までプレスクールを開講しました。

➡1年目は、語彙調査児童43人から抽出した15人がプレスクールを受講しました。

3

西尾市教育委員会の多文化共生教育はじまり物語 2 事業追加！

2009

⑩多文化子育て支援事業が船出した平成20（2008）年はリーマン・ショックによる世界金融危機に伴う国内の雇用悪化から外国人の生活困窮者が多数発生しました。そのため外国にルーツを持つ子供の不就園・不就学の急増が非常に危惧されたことから、教育委員会では、岐阜県可児市のばら教室や知立市の早期適応教室の視察を踏まえて、平成21（2009）年度から次の2つの多文化共生教育支援事業を追加スタートしました。

⑪外国にルーツを持つ子供に対する就学支援事業（厚労省の就労支援関係の補助金活用）…不就園不就学調査を実施して就園就学のための学習支援を行う教室を市民団体に業務委託して運営しています。

→ 多文化ルームKIBOU（きぼう）
（現在は社会福祉法人に業務委託）

⑫早期適応教室（プレクラス）…来日直後の児童生徒に3か月間、基礎的な日本語や生活習慣を指導する教室を小学校内に設置。県語学（ポルトガル語）相談員をヘッドハンティング（人的資源確保！）して開設にこぎつけました。

→ 日本語初期指導教室カラフル

⑬平成21（2009）年度当時は2つのプレスクールを異なる事業として実施。多文化子育て支援事業による在園児に対するプレスクール（Z）と外国にルーツを持つ子供に対する就学支援事業による不就園児に対するプレスクール（F）です。現在は外国にルーツを持つ子供に対する就学支援事業（多文化ルームKIBOU）の中で2つのプレスクールが実施されています。

⑭平成21（2009）年度は、多文化子育て支援事業の外国人児童コーディネーターや早期適応教室指導員の自主企画に文化庁の補助金を活用して「日本語を教えるボランティアのためのスキルアップ研修」、「外国にルーツをもつ児童生徒のための日本語指導者養成講座」が実施されました。

⑮愛知県が平成21（2009）年10月に策定した『プレスクール実施マニュアル』検討会議の委員として外国人児童コーディネーターと子ども課担当者が参加しました。

⑯多文化子育て支援事業は、総務省の市町村の活性化新規施策100事例（平成21年度地域政策の動向）に選定。

西尾市教育委員会の多文化共生教育はじまり物語 3 事業継続！

2010～

- ⑰平成23（2011）年度に西尾市が幡豆郡3町と合併したときの機構改革により、子ども課は市長部局へ移管されましたが、3事業は教育委員会所管のままとして残されました。
- ⑱3事業はさまざまな紆余曲折はあったものの、令和元（2019）年度まで、教室を支える人材（人的資源）の孤軍奮闘に近い「たゆまぬ努力」により継続されてきました。



定着までの辛苦

- ① (園・学校)現場の無理解 → 身近な味方の少なさ
- ② 保護者の母語保持と日本語教育に対する意識の低さ
- ③ 雇用条件の低さでスタッフの確保・育成・定着が困難 → 知識経験の蓄積停滞



- ① 指導人材の継続雇用
- ② (園・学校)現場の理解者・協力者の出現
- ③ 子供の進路実現 → 就学支援・日本語指導の成果
- ④ 先達者・専門家との連携
- ⑤ 段階的な雇用改善
- ⑥ 教育委員会所管事業

継続できた要因

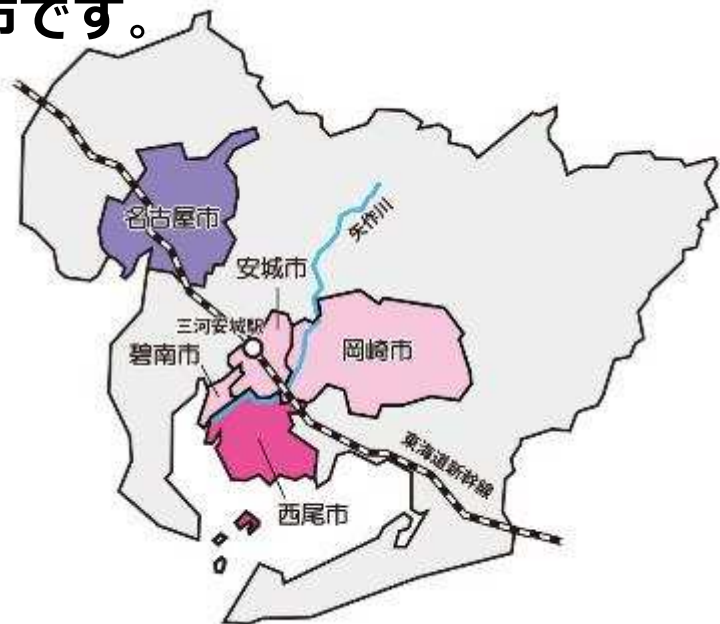


西尾市ってどんなまち？



⇒市章：結び井桁。旧西尾城主大給松平氏の道中目印として使用していたものと伝えられ、整然とした市街と市民の団結を象徴

■西尾市は、愛知県のほぼ中央を北から南へ流れる矢作川流域の南端（西三河南部）に位置し、面積は**161.22km²**で、県全体の約3.1%を占めています。人口は**176,861人**（R4.1.1現在）で、西三河南部の中核的都市です。



西尾市のゆるキャラ「まーちゃ」

三河湾から望む西尾市全景

■中部圏の中心である**名古屋市の45km圏域**にあり、東は蒲郡市、幸田町、北は岡崎市、安城市、西は碧南市と接し、南は三河湾に面しています。平成23（2011）年4月1日に幡豆郡三町（一色町・吉良町・幡豆町）と合併しました。



▲その年の豊凶を占う勇壮な鳥羽の火祭り

■西尾市は、西尾藩六万石城下町の風情や元禄事件（忠臣蔵）で有名な吉良家の菩提寺など名所・旧跡が多くあり、一色の大提灯や鳥羽の火祭りなど伝統的な祭りや芸能が伝承されています。



■西に実り多き大地を育む矢作川が流れ、東に緑深き三ヶ根山などが連なり、南に風光明媚な三河湾を臨む、海、山、川の豊かな自然に恵まれた西尾市は、日本経済を支える自動車関連産業の集積地であると共に、全国有数の生産量を誇るてん茶やウナギ養殖をはじめ、洋ランやカーネーション栽培、アサリなどの魅力あふれる地域資源を有しています。



▲全国有数のてん茶（抹茶の原料）生産量を誇る茶畑

■西尾市の目指すべき将来都市像は、
「**自然と文化と人々がとけあい**
心豊かに暮らせるまち 西尾」

「**活力・創造**」「**安心・便利**」「**自立・協働**」
の3つの考え方を結びつけて、つなぎ合わせる
「**融和**」をまちづくりを進めるための基本理念
に定めています。

各学校とカラフルと多文化ルームKIBOUの連携をこれまで以上に強化し、**外国にルーツを持つ子どもの小・中学校への不^レ就学率ゼロ、全^レ日制高校への進^レ学率向上**に取り組みます。

(広報にしお令和2年6月号掲載の
市長コラムから抜粋)



元禄事件（忠臣蔵）の敵役、吉良上野介義央は
地元吉良では赤馬に乗った名君として慕われた

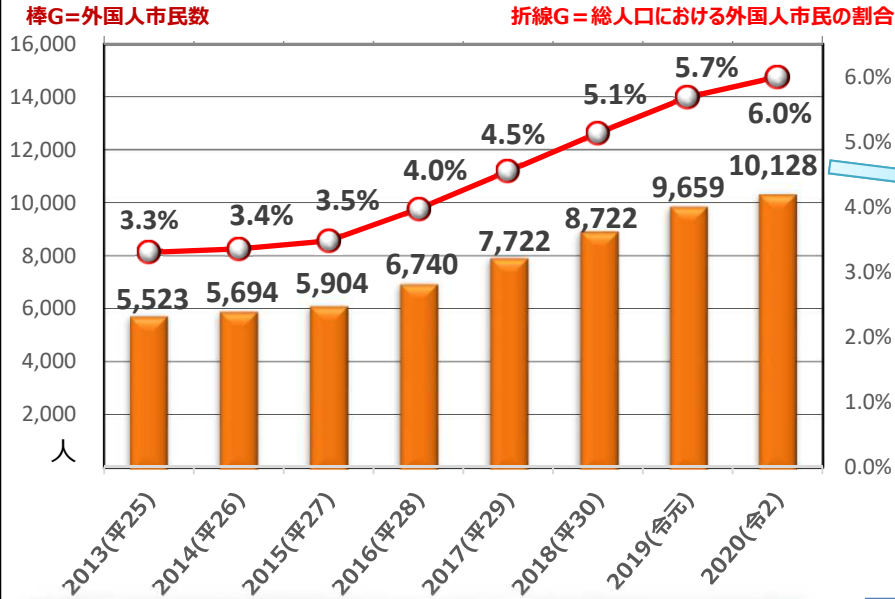
■西尾市の財政規模：R2決算（R元）

- 一般会計 歳入**803**億円（584億円）
歳出**767**億円（553億円）
- 財政力指数 3か年平均**0.984**（0.983）
- 経常収支比率 **86.8%**（84.9%）
- 市債残高 **305**億円（302億円）
- 積立金残高 **95**億円（91億円）
- 特別会計（4） 企業会計（4）
- 職員数 **1,683**人（特会・企会・消防含む）

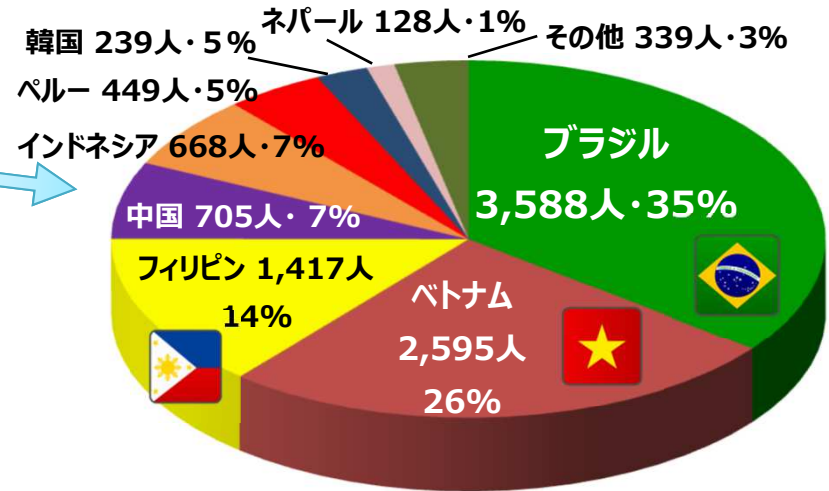
西尾市の外国人市民数の現状



外国人市民数の動き (各年4月1日現在)



国籍別外国人市民数 (R2.4.1現在)



愛知県内の外国人住民比率

順位	市町村	割合	外国人住民数 (2019/12/31)	総人口 (2020/1/1)
1	飛島村	8.57%	397人	4,630人
2	高浜市	8.57%	4,178人	48,758人
3	碧南市	7.73%	5,636人	72,936人
4	知立市	7.66%	5,506人	71,870人
5	小牧市	6.92%	10,288人	148,760人
6	西尾市	6.16%	10,470人	169,914人
7	岩倉市	5.82%	2,790人	47,964人

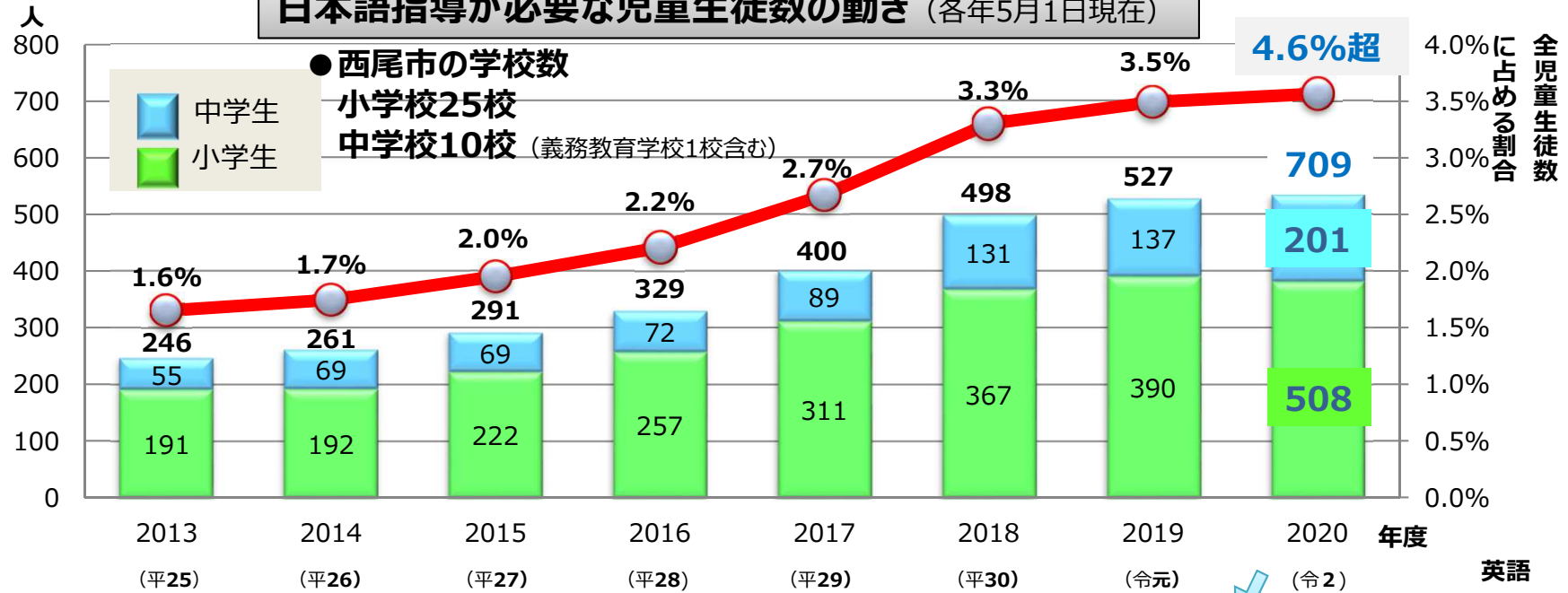
※外国人住民数は法務省の在留外国人統計より



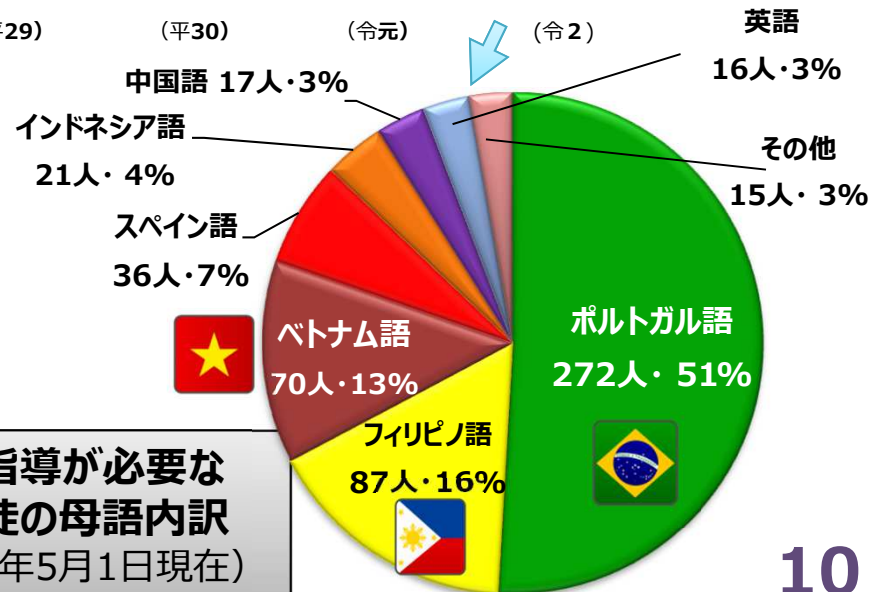
西尾市の外国にルーツをもつ児童生徒数



日本語指導が必要な児童生徒数の動き (各年5月1日現在)



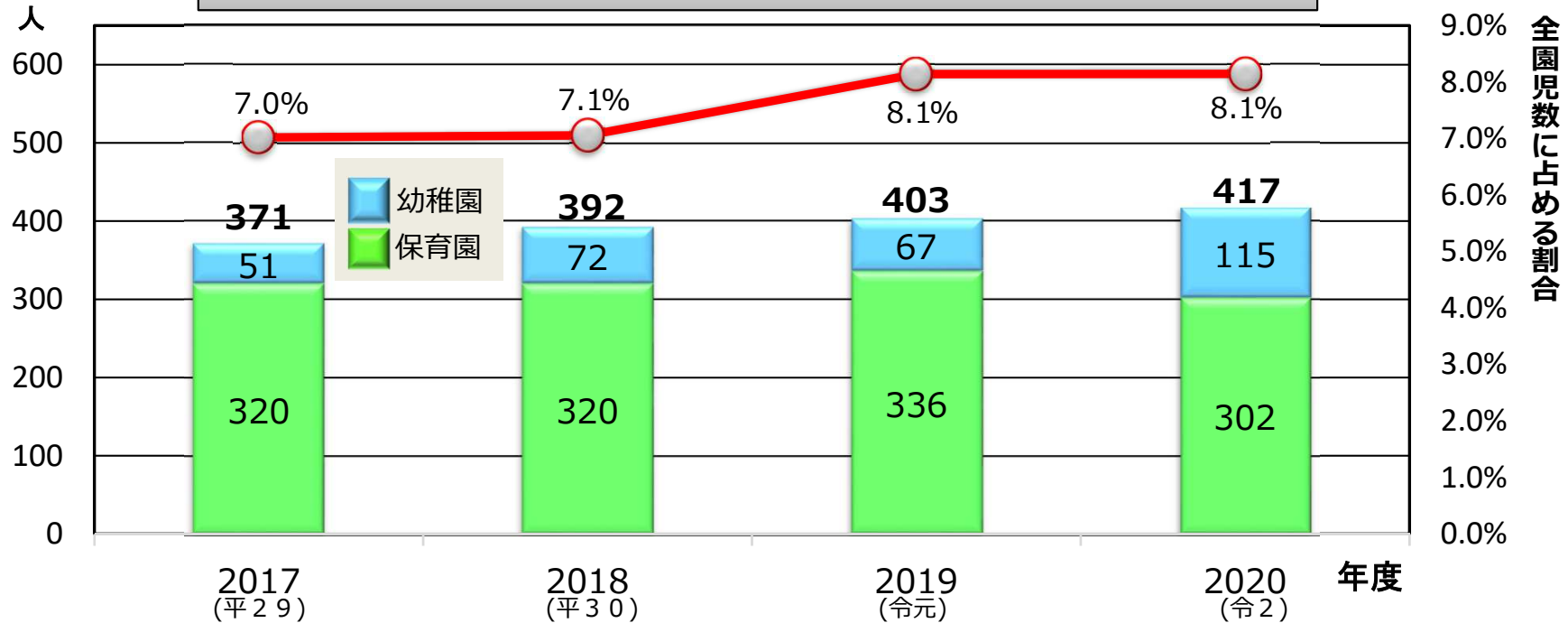
日本語指導が必要な児童生徒の母語内訳 (令和2年5月1日現在)



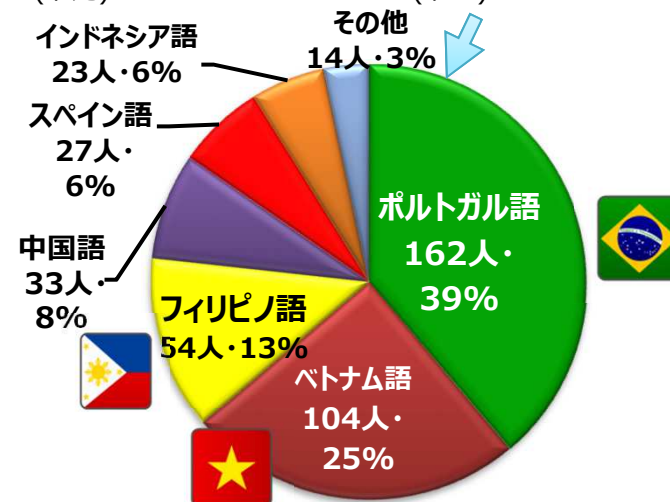
西尾市の外国籍園児(0歳～5歳)数



保育園・幼稚園等に在園する外国籍園児数の動き (各年4月1日現在)



- 西尾市の園数
 公立保育園25園
 私立保育園9園
 公立幼稚園3園
 認定こども園2園 (令2～)
 ※私立幼稚園2園は除く



西尾市教育委員会では、令和3年6月1日に 子ども・若者総合相談センター「コンパス」

おまけの
ページ

を開設しました。担当は、教育委員会事務局生涯学習課です。

※コンパスは官民連携（市が一般社団法人に業務委託）により運営しています

コンパスは、不登校やひきこもり
など様々な悩みを抱える子ども・
若者とその保護者などからの相
談に対する包括的な支援をワン
ストップで行うセンターです。

- 市内在住在学の概ね15歳
～39歳（外国人もOK）
- 利用無料 ● 秘密厳守



西尾市中央ふれあい
センター3階に開設した
子ども・若者
総合相談センター
コンパスの詳細は
HPから



※様々な悩みを抱える子ども・若者が前へと進むお手伝いをし、彼らが迷ったときにはいつでも近くで支えられる、彼らにとっての羅針盤（コンパス）のような存在であり続けたいという想いからコンパスと命名しました。



● コンパスの支援内容
相談（LINE相談
実施中）・同行・訪
問・地域交流・就労・
学習・居場所・家族会など



● コンパスの特色
ひきこもりや不登校に限らず、進
路や就職への不安など、「こんなこ
とを相談してもいいのか」「どこに
相談していいか
わからない」と
いった、行政
のはざま
で切り捨てられる
幅広い悩みを
受け付けている
ことです！

